

苫前町における  
令和元年度全国学力・学習状況調査の結果

令和 2年 2月

苫前町教育委員会

令和元年11月、北海道教育委員会から、北海道の公立学校における調査結果の概要として「平成31年（令和元年）度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」が公表された。苫前町教育委員会では、この調査結果を受けて苫前町の学力・学習状況を把握し、各学校における指導の工夫改善に生かすために、調査結果の概要をまとめたものである。

## ◆ 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の概要

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象とする児童生徒

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部第3学年の生徒

### 3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
  - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

### 4 調査の方式

悉皆調査

### 5 調査期日

平成31年（2019年）4月18日（木）

### 6 調査実施した学校・児童生徒数

【調査対象校】 北海道（公立）

区分	対象学校数（校）	実施学校数（実施率）	児童生徒数（人）
小学校	1,000	997（99.7%）	38,837
中学校	585	584（99.8%）	37,859
合計	1,585	1,581（99.7%）	76,696

#### 【中学校の英語について】

中学校の英語の結果は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について示している。「話すこと」については、参考値として結果を示している。

## ■ 苫前町の全国学力調査結果の概要

### 1 児童生徒の学力状況の概要

#### 【 小学校 】

区 分	国 語	算 数
	正答率 (%)	正答率 (%)
全 国	6 4	6 7
北海道	6 3	6 4
苫前町	7 2	6 7

#### (1) 国語に関する問題

\* 全道平均を、**9ポイント**上回っている。(全国平均**8ポイント**上回っている)

○ 特に平均正答率が高いものは、

設問2-2「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができるかどうか」(100%)

設問2-1-1(1)「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができるかどうか」(87.0%)、

設問3-2「目的に応じて、質問を工夫することができるかどうか」(87.0%)

などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問1-3「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうか」(26.1%)で、理由や根拠を明確にして書くことに課題があると考えられる。また、設問1-4-1(1)-ウ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうか」(39.1%)で、正答の「関心」と同音異義語の「感心」との意味の違いを捉えることができず、文脈の中での使い分けができなかったと考えられる。

□ 今後は、

① 自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切である。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要である。さらに、より説得力をもって自分の考えを伝えるためには、調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くことも必要である。

② 漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるように指導する必要がある。

#### (2) 算数に関する問題

\* 全道平均を、**3ポイント**上回っている。(全国平均と同じ)

○ 特に平均正答率が高いものは、

設問2-1(1)「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができるかどうか」(95.

7%)、設問3-1)「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができるかどうか」(95.7%)などの問題である。

- 課題が見られるものは、設問3-2)「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうか」(34.8%)で、解答類型からはわられる数とわる数に同じ数をかけることと、わられる数とわる数を同じ数で割ることは記述できているが、商が変わらないことではなく差が変わらないことを記述している、などの傾向がある

また、設問2-3)「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか」(43.5%)で、市全体の水の使用量が変わらないことと、市の人口が増えていることは記述できているが、それらを関連付けることはできず、市全体の水の使用量が変わらないことから、一人当たりの水の使用量も変わらないと判断していると考えられる。

□ 今後は、

- ① 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにするためには、適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにすることが重要である。

例えば、商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動が考えられる。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見だしていくことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切である。

なお、小数や分数の除法の計算の仕方や同じ大きさを表す分数などの学習においても、除法に関して成り立つ性質が活用されていることを確認することが大切である。

- ② 目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断することができるようにするためには、例えば、本設問を用いて、水を大切に使用しているかどうかを知るために、市全体の水の使用量には、市の人口が関係していることに気付き、一人当たりの水の使用量について考察し判断する活動が考えられる。その際、「市全体の使用量は変わらないから、一人当たりの水の使用量も変わらない」と捉えた場合には、一人当たりの水の使用量はどのようにして求めることができるのかを確認するなどして、市全体の水の使用量と市の人口について、それぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて考察する必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。

【中学校】

区 分	国 語	数 学	英 語
	正答率 (%)	正答率 (%)	正答率 (%)
全 国	7 3	6 0	5 6
北海道	7 2	5 8	5 4
苫前町	8 0	6 8	5 6

(1) 国語に関する問題

\* 全道平均より、8ポイント上回っている。(全国平均7ポイント上回っている)

○ 特に正答率(80%以上)が高いものは、

設問1三「「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く」(96.6%)

設問3二「広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。(93.1%)

設問4「語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する」(93.1%)などの問題である。

● 課題(40%以下)が見られるものはなし。

(2) 数学に関する問題

\* 全道平均より、10ポイント上回っている。(全国平均8ポイント上回っている)

○ 正答率の高いものは、

設問1「aとbが正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ」(82.8%)

設問2「連立二元一次方程式  $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$  を解く」(82.8%)

設問3「 $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める(82.8%)

設問9(3)「連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ」(82.8%)

などの問題である。

● 課題が見られるものは、

設問6(2)「冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する」(37.9%)の問題である。

□ 今後は、

① 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができる様に指導することが大切である。

### (3) 英語に関する問題

\* 全道平均を、2ポイント上回っている。(全国平均と同じ)

○ 特に正答率が高いものは、

設問1(1)「ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する」(89.7%)。

設問1(2)教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する(86.2%)

などの問題である。

● 課題が見られるものは、

設問10「学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く」(3.4%)

設問4「来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く」(6.9%)

設問8「食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く」(13.8%)

設問9(2)「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く」(27.6%)

設問9(3)②③「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」(31.0%)

□ 今後は、

① 与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、まずはテーマについての自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書き表す必要がある。(「話して書く」「読んで書く」等の指導。英文を読み合い、より読み手に伝わるように書く指導。書くことを増やすための指導。I. You 以外の主語を、用いて書く指導)

② 「聞くこと」が目的をもって行う能動的な活動であることを念頭に置き、ただ聞いて理解するだけの活動にしないことが大切である。

③ 読んだことについて、自分の考えを述べる際には、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。

④ 言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することが大切である。

## 2 児童生徒の学習状況の概要

### 〔学習状況調査結果の傾向〕

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境などについての質問で構成されており、学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっている。

本調査において、「している」「どちらといえばしている」など肯定的に解答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向として分類した。

◆ 苫前町の児童生徒が高い傾向（80%以上）を示した質問事項

○ 小学校、中学校共通

- \* 朝食を毎日食べている。
- \* 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- \* ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- \* 学校のきまりを守っている。
- \* いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業の内容はよく分かる。
- \* 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- \* 算数・数学の勉強は大切だと思う。
- \* 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

○ 小学校のみ

- \* 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

○ 中学校のみ

- \* 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている。
- \* 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる。
- \* 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。
- \* 解答時間は十分だった(国語)。

◆ 苫前町の児童生徒が低い傾向（60%未満）を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- \* 家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- \* 地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 算数・数学の勉強は好き。

## ○ 小学校のみ

- \* 読書は好き。
- \* 新聞は読んでいる。
- \* 国語の勉強は好き。
- \* 算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。

## ○ 中学校のみ

- \* 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
- \* 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- \* 学校に行くのは楽しいと思う。
- \* 外国人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。
- \* 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。
- \* 数学の授業の内容はよく分かる。
- \* 英語の勉強は好き。
- \* 英語の授業はよく分かる。
- \* これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にあった。
- \* 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。
- \* 解答時間は十分だった。（英語）

## ◆ 苫前町の児童生徒が全道より高い傾向（5ポイント以上～20ポイント未満）を示した質問事項

### ○ 小学校・中学校共通

- \* 今住んでいる地域の行事に参加している。新聞を読んでいる。
- \* 5年生（1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- \* 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している。

### ○ 小学校のみ

- \* 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- \* 自分には、よいところがあると思う。
- \* 先生は、自分のよいところを認めてくれている。
- \* いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。



- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- \* 人が困っているときは、進んで助ける。
- \* 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。
- \* 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- \* 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

○ 中学校のみ

- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- \* 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国人にもっと知ってもらいたいと思う。
- \* 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている。
- \* 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上高い傾向を示した質問事項

- 小学校・中学校共通      なし。

- 小学校のみ      なし。

○ 中学校のみ

- \* 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上低い傾向を示した質問事項

- 小学校・中学校共通

- \* 算数・数学の勉強は好き。

○ 小学校のみ

- \* 読書は好き。

○ 中学校のみ

- \* 先生は、自分のよいところを認めてくれている。
- \* 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- \* 学校に行くのは楽しいと思う。
- \* 解答時間は十分だった。（英語）

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その1〕

（四捨五入で記載％）

質 問 内 容		小学校	小学校	中学校	中学校
		本町	全道	本町	全道
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか、（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます）	3時間以上	0	6	0	7
	2～3時間	0	13	7	22
	1～2時間	22	38	38	34
	30分～1時間	61	30	28	20
	30分以内	17	10	14	11
	全くしない	0	2	14	6
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）	2時間以上	4	7	0	5
	1～2時間	0	11	7	8
	30分～1時間	9	20	31	15
	10分～1時間	26	25	24	23
	10分以下	48	16	7	15
	全くしない	13	21	31	34
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどのくらい行きますか。	週に4回以上	0	3	14	2
	週に1～3回	0	12	17	5
	月に1～3回	35	20	21	11
	年に数回行く	35	30	17	24
	行かない	30	34	31	58
普段（月曜日から金曜日）。1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか	3時間以上			7	11
	2時間～3時間			62	48
	1時間～2時間			21	18
	30分～1時間			0	1
	30分以下			0	1
	全くしない			10	21
学校の部活動に参加する主な理由は、どれですか。	体力・技術向上			31	26
	良い成績を収める			14	13
	仲間を増やす			3	2

	楽しいから			21	27
	時間あるから			7	2
	周囲の参加			17	5
	参加しない			7	22

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その2 〕

選択項目のうち、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」を合わせたポイントが5ポイント未満・・・「ほぼ同じ」  
 5ポイント以上～20ポイント未満・・・「高い」又は「低い」  
 20ポイント以上の差・・・「非常に高い」又は「非常に低い」  
 で表した。

<学習に対する関心・意欲・態度>

- 「国語の勉強は好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では低く、中学生はほぼ同じであった。
- 「算数・数学の勉強が好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に非常に低かった。
- 「英語の勉強が好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した生徒の割合は、全道と比べ低かった。

<学習時間等>

- 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に低かった。

<基本的な生活習慣>

- 「朝食を毎日食べていますか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共にほぼ同じであった。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は低かった。
- 「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共にほぼ同じであった。

<家庭でのコミュニケーション>

- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」の質問に「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生はほぼ同じであった。

<地域との関わり>

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は非常に高かった。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いませんか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は非常に高かった。

合は、全道と比べ小学生・中学生共に低かった。

- 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じで、中学生は高かった。

#### <社会に対する興味・関心>

- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じで、中学生は高かった。
- 「新聞を読んでいますか」の質問に「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は非常に高く、中学生は高かった。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同じだった。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じで、中学生は低かった。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じで、中学生は高かった。